

# Money&Investment

休日の午後、買い物帰りの藤志郎と利子はいつもの喫茶店で一服しています。するとそこに、汗だくになった鯛吉が入ってきました。珍しく黒い背広を着ています。

「鯛吉くん、見ていただけで暑そうだね。葬式でもあったのかい？」  
 「たいさち、親戚のおじさんが急に亡くなって。あまりに暑かったんで、涼んでいいのかなと思っただけ。」  
 「うーん、それは大変だったわね。まずは汗でもふいて。」  
 「たいさち、準備をしておいたので、慌ただしくて大変でした。だれに連絡していいのかわからないし、遺影もよい写真がないし……。」  
 「うーん、そういえば、先日その遺影撮影会があったけど、行列ができていたよ。」  
 「たいさち、亡くなつてすぐに必要なのは、訃報の連絡先と遺影の2つといわれています。故人の交友関係は家族でも知らない場合が多いので、亡くなったことを知らせる人のリストがあると助かりま

## はじめの一家 休業中

す。遺影に使う写真もなかなか見つからず、困ってしまう遺族も少なくありません。  
 「うーん、年をとると、写真を撮る機会が減っていくからね。で、お葬式って、いくらぐらいかかるものなの？」  
 「たいさち、会葬者の数などの規模や地域で異なります。幅はありますが、日本消費者協会の調査では全国平均で約189万円でした。10年前に比べ約2割減っています。」  
 「うーん、喪主になった経験がないと、金額が高いかどうかなんて分からないな。」  
 「たいさち、葬儀の金額は祭壇やひつぎなど葬儀本体にかかる費用と飲食や香典返しといった別途費用(実費)、僧侶にわたすお布施の3つの合計といわれます。葬儀会社のホームページやチラシに料金がかかっていますが、葬儀本体だけだったり、本体と実費の一部だけだったりすることもあるので確認が必要です。」  
 「うーん、亡くなるたびに葬儀の手配が必要なの？ そんな余裕なんてあるのかな。」  
 「たいさち、費用で後悔しないためには、複数の会社から見積もりをとるのがいいですよ。可能な元気がうちにどんな葬儀にしたいか家族で

# 平均400万円 形式次第で幅

話し合っておくのが理想ですね。  
 「うーん、ところで最近「家族葬」が多いって聞いたわ。」  
 「たいさち、家族や親戚、親しい友人などによる少人数の葬儀のことですね。高齢で参列者が少ない場合や、親しい人だけで見送りたいというニーズに合った形式です。」  
 「うーん、少人数というよりは料金も安いということね。」  
 「たいさち、だいたい30万〜80万円が主流のようです。ただ、飲食など一部の費用が含まれていないケースもあるんで、結果として100万円を超えることもあります。葬儀をしないでお火葬をする「直葬」も増えています。これだとさらに費用は抑えられます。」  
 「うーん、うーん、おやはどう考えているのかな？ この夏に一度話してみるか……。」  
 「うーん、お墓のこと話してみたら。お父さんは長男じゃないので、お墓を建てなきゃいけないって話です。」  
 「うーん、うーん、そうだな。最近はお骨とかもよく聞かれます。ちゃんと墓地にお墓を建てるほうが多いだろうな。」  
 「たいさち、墓地は、お寺が所有する寺院墓地、自治体の公営墓地、民間の霊園の3つに分けられます。それぞれ一長一短ありますが、都市部では民間霊園、地方では寺院墓地を選ぶ人が多いとされています。お墓の費用は墓石と加工費などの墓石建立費、墓地を使用する権利を取得する永代使用料、一種の共益費である管理料の合計です。」  
 「うーん、いくらぐらいかかるのかしら？」  
 「たいさち、墓石建立費と永代使用料がほとんどを占めますが、新たに土地を手当てして従来型のお墓を建てる、100万〜300万円必要といわれています。葬儀情報サイトを運営する鎌倉新書(東京・中央)の調査では、全国平均は約211万円でした。」  
 「うーん、うーん、結構かかるな。葬儀と墓について従来の形式で平均的なことをするならば、合わせて400万円程度は必要ということか。「葬儀代の代わりに」と死亡保険に加入している人も多いと聞かれます。預金も含めて早めに準備しておいた方がいいな。」  
 「たいさち、お墓も多様化して値段も様々です。最近増えているのが納骨堂です。室内にあるのでお墓参りがしやすく掃除の必要もありません。もう一つが合葬墓や樹木葬です。従来のお墓と違って、その人限りで継承を前提として

## 葬儀とお墓、総額いくらなの？



### まずは見積もりから

第一生命経済研究所 首席研究員 小谷 みどりさん

核家族化の進展で地域とのつながりや親戚づきあいが薄れ、葬儀や墓についての考え方はどんどん変わっています。  
 葬儀については、家族葬や直葬といったコンパクトな形が増えています。こうした傾向は今後も続くでしょう。費用を心配する人は多いと思いますが、それをやわらげるにはどうしたらいいか写真や描き、業者から見積もりをとることが大切です。  
 墓に関しては納骨堂や、次世代への継承を前提としない合葬墓の需要が高まっています。「死者をまつ場所」から「死後のすみか」へと考え方は変化しており、自分らしい墓を求める人が増えています。費用の面ではデジタル化が進んでいくとみえています。  
 生前に葬儀や墓の準備をどんなにしても自分で実行することはできません。それを託すだけを探し、どうしていいかわかすか伝えておくことが大切です。

いけません。子どもがいない人や子どもに面倒をかけたくないうらな人が購入しています。これらのお墓は100万円未満で済むようです。  
 「うーん、暑かったり、寒かったりだとお墓参りは大変ですね。」  
 「たいさち、葬儀もそうですが、新しい形式を選ぶ際は、家族や親戚がいるなら、あらかじめ理解を得ておく方がいいですね。」  
 「うーん、うーん、それにして、鯛吉くんは葬儀や墓について、ずいぶん詳しいね。」  
 「たいさち、親戚の件もあっていろいろ調べたのは確かです。」

「うーん、うーん、それにして、鯛吉くんは葬儀や墓について、ずいぶん詳しいね。」  
 「たいさち、親戚の件もあっていろいろ調べたのは確かです。」  
 「うーん、うーん、それにして、鯛吉くんは葬儀や墓について、ずいぶん詳しいね。」  
 「たいさち、親戚の件もあっていろいろ調べたのは確かです。」



初野新衣紗 (はじめの・にいさ、20) 大学で金融を勉強中  
 初野藤志郎 (はじめの・ともしろう、50) 利子の親友  
 新衣紗の両親 (はじめの・たけし、47) 新衣紗の両親  
 有賀鯛吉 (ありが、28) 隣に住むファイナンシャルプランナー  
 税理士